

第 56 回 沖縄県中学校サッカー競技大会における 与勝中学校の 3 位認定までの経緯説明について

日 時： 7 月 24 日（日） 11:40 キックオフ

会 場： 赤間総合運動公園サッカー場

対 戦： うるま市立与勝中学校 対 那覇市立小禄中学校による準々決勝

(1) 概 要

- ①試合は 1 - 1 の引き分けで終了し、次回戦進出決定のためペナルティーマークからのキック（P K 方式）が行われた。与勝中の 5 人目後攻競技者がキックしたボールがゴールに入ったが、ボールに 2 度触れたと判定し、そのゴールを無効とし、キックのやり直しを行った。やり直しのキックもゴールに入り、6 人目までいった P K 方式は 5 - 4 により与勝中の準決勝進出が決まった。
- ②試合終了後、競技規則では、「P K 方式」において「ボールに 2 度触れること」はミスキックとなり、やり直しは行わないことがわかり、沖縄県中体連サッカー専門部により審判員 4 名へ「P K 方式」の状況や対応したことについて確認し、県中体連や県サッカー協会等への報告・相談を行った。沖縄県中体連サッカー専門部で協議した結果「キックのやり直しを認めたことは主審及び審判団のミスであり、試合の結果に直接影響を及ぼす場面」であったことから、主審の決定は認められず「P K 方式」のやり直しを決定した。同日、県中体連サッカー専門部長が当該チームの代表者へ事情を説明する場を設定し、決定事項を伝えた。
- ③翌日、再度「P K 方式」のやり直しについて、保護者代表への説明、審判団から各チームキャプテンに経緯の説明と謝罪を行い、やり直しを行った結果、8 - 9 により小禄中の準決勝進出が決定した。

(2) 与勝中 3 位認定について

上記の対応が適切であったか等について協議を続けてきた結果、一度ベスト 4 進出（3 位の権利）を認めた後に、審判団のミスで P K 方式をやり直すという前代未聞の対応になったことへの説明が十分ではなかったこと、生徒が困惑している状態でやり直しを行ってしまったこと等、与勝中の生徒に対する配慮が不十分でフェアではなかったことから、県中体連は与勝中に 3 位を認めることを決定いたしました。

(3) 再発防止に向けて

今回の件は、主審含む審判団、会場の大会責任者、会場の役員全員が気づけなかった。また、「P K方式のやり直し」について、大会役員という限られたメンバーのみで判断し決定してしまいました。

今回の対応は異例中の異例であり、前例をつくってしまったことを重く受け止め、今後いかなる試合でも再発防止につとめてまいります。

- ① 今回のケースのように、再開方法を誤りそうな事例を一覧にまとめ、周知する。また、一覧を大会会場本部席に常時確認できるように備えておき、場合によっては、第4の審判員と確認し、主審に助言させることで、再発防止に努める。
- ② 重大事案に関して、判断をする役員に関しては、限られた役員だけでなく、県中体連会長や各地区中体連会長、外部機関（県サッカー協会）など、役員を増やし、時間をかけて慎重かつ適切に判断する。

このたびは県中体連サッカー競技大会において、数々の配慮不足から、生徒・保護者等の関係者の心に大きな傷を負わせてしまったことを県中体連は非常に重く受け止めております。二度とこのような事が起こらないようにサッカー専門部はもちろん、全競技の専門部、各中体連等の関係機関に今回の件を共有し、再発防止に取り組んでまいります。誠に申し訳ありませんでした。